

東京電力ホールディングス(株)福島第一原子力発電所
2022年度 パフォーマンス向上会議情報(2022年9月20日(火)分)

◆不適合とは、本来あるべき状態とは異なる状態、もしくは本来行うべき行為(判断)とは異なる行為(判断)を言います。法律等で報告が義務づけられているトラブルから、発電所の通常の点検で見つかる計器や照明の故障など、広い範囲の不具合が対象になります。

2022年9月20日のパフォーマンス向上会議で審議された不適合は、下記のとおりです。

番号	不適合内容	グレード	発見日
1	<p>【5号機残留熱除去ポンプ(A)および(C)出口弁のシート漏えいについて】 運転員が、5号機残留熱除去ポンプ(A)および(C)のメカシール用冷却器点検のため、ポンプの出入口弁を全閉後にベント弁を開けたところ、ベント弁より水の滴下が継続しているため、ポンプの出口弁または入口弁にシート漏えいがあることを確認。 ポンプ入口弁のシート漏えいの場合、原子炉水位の低下および圧力抑制室の水位低下が発生するため、原子炉水位および圧力抑制室水位を傾向監視したところ、水位変動がないことから、入口弁のシート漏えいはなしと判断。 残留熱除去ポンプ(A)および(C)出口弁のシート漏えいと推定した。 今後の対応として、当該出口弁は残留熱除去ポンプ(A)および(C)の隔離弁であるが、シート漏えい量は微量であり、残留熱除去ポンプは状態監視保全(※)にて異常傾向がないことを確認していること、当該出口弁は通常「全開」の状態で使用することから、状態監視保全の中で、点検を実施する。</p> <p>※状態監視保全:対象となる機器を監視し、その状態に合わせて、修理や部品交換などを行う、設備保全手法。</p>	GⅢ	9月13日
2	<p>【2号機燃料取り出しに伴う共用ボイラ建屋跡地整備でのアスファルト舗装作業中における体調不良者の発生について】 協力企業作業員が、2号機燃料取り出しに伴う共用ボイラ建屋跡地整備でのアスファルト舗装作業中に、立ち眩みを訴えたため、救急医療室を受診した。 救急医療室において、熱中症Ⅰと診断され、処置を受けた。 当日中に体調は回復しており、翌日は不休となっている。 今後、熱中症予防対策について、再周知および再教育を実施。</p>	GⅢ	9月14日